

北海道電力の電気料金値上げ申請に係る公聴会の意見書類提出について

○意見陳述人氏名（敬称略）：多加 順子

○意見内容：

昨年 9 月に値上げをしたのに関わらず、このたび値上げとはどういうことなのでしょうか？

家庭や企業の節電は浸透して切り詰める余地は減っていると思います。企業においては、22, 61% の値上げは、倒産する企業が増えると思いますが、どう考えているのでしょうか？

新聞からの情報ですが北電社長の話は、

- ・ 値上げは大幅だが電力の安定供給を支える安定経営のためとの位置付け
- ・ （再値上げ申請の）根本は泊原発の停止。燃料費が年間 2 千億円増加し 3 年連続の赤字になった。
- ・ 一番望ましいのは泊の早期再稼動。全力で取り組み、営業運転後は料金を引き下げる
- ・ 役員報酬は妥当な水準
- ・ コスト削減は、お客様の感情に応え、全費目を再度洗い直し考えたいという記事を拝見しました。

ご自分達の守りの意見としか思えません。

原発に頼らない再生可能エネルギーの導入を考えてください。

北海道条例 108 号にはとても良い条例がありますよね。「北海道省エネルギー・新エネルギー促進条例」に沿った電力の多様化を推進して北海道におけるエネルギー政策の展望をあきらかにしてください。

再生エネルギーを見直す、ということが電力会社のやるべきことだと思います。

北海道には、寿都町や下川町などでは再生エネルギーで電気を自給しているところもあると聞いています。また、鹿追町においては牛の糞尿からバイオガス発電をしていて、町内の 500 戸の電気を作り全国一の発電量になっているようです。3 年後には今の 3 倍にして町内の大部分の電気をまかない予定だそうです。これこそエネルギーの地産地消です。北海道には、自然エネルギーとして風力・ソーラー発電・バイオガスなどを利用している企業があります。

道内ではソーラーで 183 万 kW(2014 年 1 月)風力では 187 万 kW(2012 年時点)、北電で買い取る上限は 30~40% しか買わない。でもすべて買っていただくと 370 万 kW。泊原発の 1.85 倍の電気がまかなえます。天気しだいで変わってしまうので不安定だからとのようですが、ドイツやスペインでは風力やソーラーを大量に導入し、変動分をガス・タービンや火力で調整しています。日本の技術ならばそれも可能ではありませんか？送電網が不足していることは承知です。国の予算も入れて送電網を整備すれば北海道は『再生可能エネルギー王国』になれます。

このような企業や町を参考にしてください。

私達も北電さんが身を削る対策を講じ、納得のいく説明を望みます。今のままでは北電の値上げには断固反対をします。

最後にお聞きします。値上げの大きな要因は泊原発の安全基準クリアのための工事費用なののでしょうか？再稼動のために多くの費用をかけ、その負担を市民に押し付け危険な原子力発電を継続していくのですか？

以上